

健康

質問

50代男性です。肺がんと診断され抗がん剤治療を受けています。インターネットで調べていると、終末期にどんな医療やケアを受けるかを事前に家族や医師らと話し合うアドバンス・ケア・プランニング（ACP）を知りました。難しくよく分からなかったのですが、分かりやすく教えてください。

終末期の「ACP」とは



川下 美紀
徳島大学病院緩和ケア
センター看護師長

回答

ACP は、もしもの時のために、本人が望む医療やケアについて、前もって考え、家族や医師、看護師らと繰り返し話し、考え方を共有する取り組みです。厚生労働省はACPを「人生会議」と呼んで啓発しています。

誰もが命にかかわる大きな病気やけがをした時、急に病気や事故で自分の意思や希望を伝えることができなくなったりする可能性があります。この状況が「もしもの時」です。もしもの時がいつ訪れるかは誰にも分かりません。命の危機が迫った状態になると、約7割は医療やケアの受け方を自分で決め、望みを人に伝えることができなくなるとされます。ACPの目的は、終末

治療計画、家族らと共有



期医療について考えることではなく、その人の人生観や価値観、希望を将来の治療や療養に反映させることです。もしもの時に備え、考えておくこと、伝えておくことがとても大切です。また、状況によって意思は変化します。決して決めることが重要ではなく、その時の健康状態や生活状況に応じて何度も繰り返し話し合うことが大切です。

徳島県がん診療連携協議会では「もしもの時」のために「もしもの冊子」を発行し、徳島県内のがん診療連携拠点病院、人生会議の取り組みに賛同する病院で配布しています。何についてどのように話し合うのかを具体的に紹介しています。また話し合った内容を記入

し、医療関係者らと共有できるようにしています。

がん何でもクイズ

胃がんの発生に関係するとされている菌はどれでしょう。

- ①ピロリ菌 ②コレラ菌 ③ビフィズス菌

行こうよ！がん検診

もしもの時について話をすることは、縁起でもないことだという風潮があり、なかなか浸透していません。しかし、人生の終わりまで、どのように過ごしたいかという思いを大切にするには人生会議をもっと普及させるのが大切です。アドバンス・ケア・プランニングを知ったのを契機に、まずは家族や親しい人と、もしもの時について少し話してみませんか。

（第4土曜掲載）



徳島県がん診療連携協議会がACPの普及に向けて発行した冊子「『もしもの時』のために」

患者の「人生観」を反映

がんに関する質問は
徳島がん対策センター
〈電話088(634)6442〉

(平日午前
8時半から
午後5時ま
へ)

